

### 第19回例会

通算第 1254 回例会 2025 年 12 月 17 日(水)

12:30~13:30 郡山ビューホテル

- ▶ 開会点鐘
- ▶ ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱
- ▶ 四つのテスト唱和: 蔭山寿一さん

#### ▶ 宮崎登志行 会長 挨拶

今年もあとわずかとなりました。先日は今年の漢字が発表になりまして、なんと「熊」だそうです。秋田、岩手に続いて福島県が3番目に被害が多く、福島市では今日も警戒警報が出ているということですが、1年を象徴する今年の漢字は個人的にはしっくりこないというような気がします。

今年度ようやく半年が過ぎまして、来週のクリスマス家族会が終わるとすぐ来年に入ります。周年に向けてのいろいろな形で活動していかなければいけないなというふうに思っておりますし、皆さんのご協力もますますよろしくお願ひしたいと思っております。

#### ▶ 出席報告: 井上 厚 出席委員長

会員数 43 名、出席 16 名、欠席 27 名、出席率は 37.21%です。

#### ▶ スマイル BOX 報告: 増子ふみえ スマイル BOX 委員長

土屋繁之さん、片桐栄子さん、宮崎登志行会長、味戸誠一郎さん、井上厚さん、蔭山寿一さん、佐藤功一さん、津野順子さん、橋本弘幸さん、星相ノ介さん、増子ふみえの 11 名からいただきました。

#### ▶ 幹事報告: 渡邊万里子 幹事

①郡山 RC から創立 90 周年記念式典・祝賀会のご案内が来ております。来年 5 月 23 日(土) 午後 2 時より受付、午後 3 時開会で郡山ビューホテルアネックスにて開催されます。皆様どうぞご参加ください。

②ガバナー事務所から来年 6 月に行われる台北国際大会の登録のお願いが来ております。12 月 1 日現在の登録者数は 3 万 3076 名、日本の登録者数は 2640 名で台湾に続き世界 2 位だそうです。6 月 14 日からの開催で登録がまだ間に合いますが、当クラブは新竹東北区 RC さんの会長交代式に 11 名の参加が決まっております。

### プログラム: 会員卓話

#### ▶ 井上 厚 出席委員長「探偵の狂った趣味 ポート製作日誌」

出席委員会の担当ですので出席率を上げることに話さなくてはならないところですが、今回は誰もやらないようなことを半年以上かけてやったということで、自作ポートの製作のお話をしたいと思います。インパクトを意識したタイトルですが、決して自分が狂っている自覚があるわけではありません。そもそもなぜポートを作ろうと思ったかという、私がロータリーに入った 2019 年に釣りを趣味として始めたことがきっかけです。



当初は堤防で竿を立てるサビキ釣りで小魚を釣っていました。フグがよく釣れていたために「またフグか」と残念な気持ちになりました。そのうちに釣り仲間ができました。お子様誕生前の松川氏を週末に拉致して釣り場に行っていました。2019 年 12 月にいわきの勿来火力発電所の温排水が出ているサーフ(砂浜)

で、初めて大きいヒラメを釣りました。最初の大き目で 50 センチぐらいありました。すごい手応えがあって、その感覚は忘れられません。クロダイ、マゴチなどを釣って楽しんでいるうちに、2020 年頃からコロナ禍の中で釣りブームが到来しました。釣り場はどこも難しい状況になりましたので、船釣りを始めました。乗り合い船とかチャーター船では、魚群探知機を見ながら船長が釣れるポイントに連れていってくれます。つまり釣らせてくれるわけです。乗り合い船は 1 人 13000 円ぐらい、チャーター船は 4~5 万円ぐらいを人数割りすることが多いようです。釣り船もいいのですが、自分で操船して好きなところに行きたいという欲求がエスカレートしていきまして、自分のポートが欲しいと思うようになりました。買えばいいのにわざわざ作るようになった理由は、人と同じことをやりたくないという性格と、自作したらどれほどの達成感があるだろうかということでした。

初めての取り組みでしたが思い立ったら即実行と、まずは情報収集ということで、主にインターネットで小型船舶の免許関連、ポート製作ブログ、FRP の施工技術関連、日本小型船舶検査機構の調査研究報告書といったようなものを調べまわりました。ポートにはいろんなタイプがありますが、2 馬力の動力を持つミニポートは、長さ 3 メートル未満、船外機エンジンの出力 1.5 キロワットで 2 馬力未満、法的制約がほとんどなく、船舶免許も車の車検みたいな船舶検査も必要ありません。長さが 3 メートルを超えすと船舶検査が必要になります。2 馬力のミニポートの問題点は、無免許で船体自体が無検査で操船できることから海難事故が多く、近年は事故が急増しているということです。波の高さ、風速、潮の流れなどを読む力が必要で、海洋上で航行するためには知っておくべき法規があります。知っておかないと大変な事故を起こしてしまいますから、海に出るなら船舶免許の取得が必要と思い、塩釜まで行って 2 級の小型船舶免許を取りました。プレジャーボートなどのやや大きめの船も操船できます。

そして「探偵の狂った趣味 ポート製作」が始まりました。まず設計図の方眼通りにマーカーします。インターネットで購入した設計図は船舶検査の対象になるような 3 メートル以上の船だったので、寸法を短くして 3 メートルに収まるようにして耐水ペニヤを購入して切り出し、ペニヤ板をつなぎ合わせるために板に穴を開けて針金を通してテンションをかけて締めてつなぎ合わせていきます。これで船の箱ができます。つなぎ目には耐久性が強いエポキシ接着剤に木粉を混ぜて流し込み、隙間ができないようにつまめます。

次にベニヤを芯材にして、外側 4 ミリ、内側 3 ミリの FRP の積層をします。FRP というのはガラス繊維にエポキシ樹脂を含ませて浸透させ、時間をかけて硬化させて固めたもので、ベランダ工事やバスタブなどでも使われています。ガラスマットとガラスクロスを交互に積層させてポリエステル樹脂を流して硬化させることを繰り返します。固まった FRP を削るときは大量のガラス繊維の粉塵が飛散しますので、防護マスクが必須です。内張りでも FRP 積層を繰り返して、ガラスマットを 1 枚積層させると 0.8~1 ミリぐらいの厚さになります。さらに船体の内面にハニカム構造の仕切り板を接着し、キール(背骨)を挟み込んで、水圧などで歪んで折れたりしないように、ひねりや曲げに強い耐圧強化をします。万が一水が入っても浸水しない不沈構造のために水に浮く性質を持つ発泡ウレタンを使います。液体を混ぜて攪拌すると一気に泡が出てきてすぐ固まります。船体の内側の塗装はイソ系塗料として FRP 用のトップコートを使います。次に、ひっくり返して船の底にレールみたいなスケグとかストライプを並べて付けます。これにより直進性を向上させ、横の安定性が強化されて横風にあおられても横滑りせず、安定します。その後に FRP の細かな凹凸をパテで埋めて、ツルツルになるまで研磨します。ひっくり返した船首部分とサイド部分と一番後ろのトランサムというエンジンをつけるあたりにイソ系のトップコートを塗ります。これで外側と内側の塗装は完了です。

陸地での移動のために、トランサムの板に車輪軸(ドーリー)をつけます。4 つの大穴を開けるので間違えると大変なことになるので慎重に作業しました。ネジ穴にはコーキング材を充填して防水します。接岸したときの衝撃吸収のためのガンネルという防減材を船のヘリの部分に取り付けます。ミニボートは小さい船体のため波や風に弱い不安定な構造ですので、サイドフロートという両サイドに浮きを作って安定させる方法がありまして、これも自分で作りました。サイドフロート 2 つで浮力は 140 キロぐらいになります。発泡スチロールに専用のポリエステルを塗って硬化させました。最後に空冷式でメンテナンスもしやすいことで人気のホンダの 2 馬力エンジンを購入して取り付けました。魚群探知機の電源として、バイク用の 12V のバッテリーを防水仕立てにしてコックピットの蓋下に収納しました。

船の形が完成してよいよ水に浮かべてみることになり、牽引用の軽トレーラーをネットで購入しました。軽トレーラーの車検は 2 年で、車検費用も一般では安くはないのでユーザー車検でかなり安く維持しております。ミニボートは不安定で横揺れに弱いのでフロートを装着しました。小野町にある廃校をリニューアルした複合施設のプールを借りて走行テストをしました。娘も来てくれました。地下水の汲み上げは無料です。船を浮かべるための水の量の水道代は 20~30 万かかると言われておりますので、無料の地下水を使ったことはラッキーでした。そして家族と仲間が進水式を行いました。女性がシャンパンを割って祝う

進水式は、航行の安全と豊漁を祈願する伝統なので、妻と娘にお願いしました。松川さんのご家族も自作ミニボートに乗りました。

ボートが完成するには半年ぐらいかかりました。相馬の原釜小浜海水浴場から入水させました。初めての釣りで、なんと 200 メートル沖でヒラメが釣れました。50 センチはいかなかったのですが、初めて自作ボートで釣った魚でしたので、すごく嬉しく、食べ応えもありました。「覆れないのか」「浸水しないのか」「自作ボートで海に出るなんて狂ってる」などと散々言われましたが、全然問題なく、沈みません。クラブの親睦行事でおなじみの小町ダムのカヌー・カヤック教室でも救助船として活躍中です。この自作ボートと一緒に海に出してくれる無謀な協力者たちがいます。まず松川さん、ワークマンのアンバサダーの大谷さん、郡山 RC の幕田さん、以前卓話に来られた自転車レースの鶴沼さんたちです。安全走行の実験協力だけして高みの見物をする方もいますが、そのうち海に連れて行こうと思っています。鶴沼さんは「連れて行く前に俺のも作ってほしいな」と言われましたので検討中です。皆さんから何か質問がありましたらよろしくお願いたします。

Q:費用は?

ボートが買える程度はかかりました。それでも自作にこだわって作りました。安く済むかなと思ったら意外とかかりました。

Q:何人乗りですか?

2 人乗りと思ったんですけど 3 人乗れました。140 キロまでですね。海に出すとすると 2 人が安全かなと思っています。

Q:エンジンが壊れた時は?

自力で戻る方法としてオールを付けています。ライフジャケットも必ず着けています。沖に出る自信はありませんので、海岸線から 200~300 メートルぐらいの、目視で人が見えるぐらいの位置をキープして、あまり波が立たない日を狙って船を出しています。もし危ないと感じた時はすぐに戻ります。安全管理の問題もありますので、そのために船舶免許を取りました。

